

旧制松江高等学校教師

カルシユの足跡を追って

◇7◇

若松 秀俊

どういうわけか長女の

メヒテルトは、あまり家

事の手伝いを母エンメラにさせてもらえなかったという。当時の生活と近所の様子を、メヒテルトが筆者に語ってくれた話に基づいて、次のように再現してみた。

「つまんないの」

「聞いています。」

「ムティ(ママ)、寒天

プディング、ミルク卵砂糖入りカスタードを食

家庭生活

(下)

がす。石橋の豆腐屋に、

メヒテルトはときどきお

使いに行く。

「いい匂い」

豆腐の匂いのすばらし

さ。

「いっしょに豆乳も店で

買うわ」

「好きな香りだ。ヨー

ロッパにはないと両親が

長女は、やはり母親似



外国からの客を迎え、学校関係者と一緒に撮影

したカルシユ父娘と教え
子たちが、宍道湖岸のホ
テルで歓談した際、教科
主任の高島(紹介)でカル
シユ家で働くようになった
西織(きみえ)がエンメラ
について語っている。

そのとき西織は、四十
歳になっていたメヒテル
トがエンメラの姿・形す
べてにわたってそっくり
だ、と言っている。もち
ろんフリッツは笑いなが
らこれを否定していた
が。

そのときの録音が筆者

(東京医科歯科大学
学院教授)

――文中敬称略――

……

係より 6月17日付の

第6回「家庭生活(上)」

の見出しは、表現が不適

切でしたので「父娘のき

ずなど心の交流」に変更

します。

……

写真(昭和九(一九三三)座った女性が訪問客だ
四(一九三三)年、メヒテルト六歳が、だれか分らない
の時、アメリカから、近所の人も一緒であつ
イギリスからよく分かった。そのときの記念写真
らないが、お客があったのである。椅子に
時のものである。椅子に 昭和四十三年に再来日

の手元にある。子守はメ
イドのきみえの役だつ
た。彼女は、日本の母と
して後々まで慕われた。
つまりメヒテルトにとつ
ては極めて重要な存在

◇

……

……

……

……

……